

インプラント・矯正・入れ歯・エンドの勉強は常に行っている。
しかし、補綴は最近学んでいないという方必見!!

2018

Metal-Free × Digital Dentistry

どこよりもシンプルにメタルフリー・デジタル化を考える1日

日本臨床CAD/CAM学会 (旧JSCAD) 名誉会長が語る!補綴治療のこれまでとこれから

ご自身で福岡市で開業されながら、1989年に一念発起されインディアナ大学歯学部大学院補綴科へ留学。1993年には米国歯科補綴専門医となられ、2018年からは**米国大学同窓会会長**に就任されました。開業医でありながら、治療におけるグローバルスタンダードを持ち合わせた稀有な歯科医師です。

米国歯科大学院同窓会 (JSAPD) 14 代目会長
医療法人光梅会 岡村歯科医院

院長 岡村 光信氏

1977年九州歯科大学卒業、1993年インディアナ州立大学歯学部補綴科大学院修了。米国歯科補綴学修士、米国歯科補綴専門医、1994年福岡市博多区開業、**日本臨床CAD/CAM学会名誉会長**、2018年米国大学同窓会会長就任



日本トップクラスのセレック実績!理事長が語る!デジタル化の“いろは”



医療法人社団正翔会
横須賀歯科医院

院長 横須賀 正人氏

1995年日本歯科大学卒業。都内勤務医を経て、2005年東京都大田区大森駅にて横須賀歯科医院開設。2007年医療法人社団正翔会設立。2012年同じ駅ビル内で女性に配慮した完全個室の横須賀デンタルオフィス開設。

東京都大田区にて開業。日本一のワンストップクリニックを目指し日々診療に行っている。特にセラミック治療は、日本トップクラスの実績を持ち 2014 年よりセレックを導入し、**Dr1 名当たり 2015 年 23 本⇒2018 年 40 本**へ成長を遂げた。その要因は、**破折率の減少**が大きい。中面では臨床面、経営面の取り組みを紹介させていただきます。

これからのセラミック治療を考える

お問合せ No.S036899



明日のグレートカンパニーを創る

Funai Soken

TEL 0120-964-000

平日
9:30~17:30

FAX 0120-964-111

24 時間
対応

株式会社 船井総合研究所 〒541-0041 大阪市中央区北浜 4-4-10 船井総研大阪本社ビル ■申し込みに関するお問い合わせ: 星野 ■内容に関するお問い合わせ: 土屋

WEBからもお申込みいただけます。船井総研ホームページ www.funaisoken.co.jp (右上検索窓に右記の『お問合せ No』をご入力ください)

036899

デジタルデンティストリー×メタルフリーの 第一人者が語る 補綴治療の これまでとこれから

医療法人光梅会 岡村歯科医院
院長 岡村 光信氏

(株) 船井総合研究所歯科医院
チームリーダー 岡崎 晃平

船井総研 岡崎(以下岡崎) 今回のテーマである「デジタルデンティストリー」ですが、シロナ社のセレックを始め、各社からオーラルスキャナーやCAD/CAM機が出てきており、市場は以前に比べ成熟してきたと感じます。その点岡村先生はどのようにお考えでしょうか。

岡村先生(以下岡村先生) 院内のシステムがどんなデジタル化していく中、患者情報も技工物の制作過程もデジタル化が加速しています。そんな中、歯学部のカリキュラムから技工が無くなり、ある年代を境に補綴治療における補綴物の技工的な知識が薄まっていることも感じているところです。これは、デジタルデンティストリー時代の突入において、従来のアナログ的な技工知識をベースに考え、判断すべき症例を多角的に診ることへのハンディーになってしまい、しいては患者が不利益を被ることに繋がると危惧しています。

岡崎 たしかに、補綴治療の自費強化をご支援する中でも、先生方から材料的な特徴や形成について情報収集する機会がないかと相談を受けるので、岡村先生が感じている「今だからこそ不足している情報」に合致するんですね。

CAD/CAM冠の保険適応など変化が大きくなっているが、今後CAD/CAM冠と上手く付き合っていくためのポイントは何か？

岡崎 悩まれている先生方が多いテーマですが、岡村先生はどのようにお考えでしょうか。

岡村先生 マーケティング的にはいいことだと思いませんね。理由はCAD/CAM冠が保険適用されてもジルコニアには質的に劣る場合が多いからです。なので、保険でCAD/CAM冠を入れて2年間の保証の中で割れたり、外れたりすることで自費補綴物に変更する患者が増えると思います。保険でCAD/CAM冠を入れることで脱離等のトラブルが起きやすくなることは想定できます。ただ、患者としては初めて白い補綴物を入れる機会になるので良いと思っています。歯科医院としては、日本での保険歯科診療には限界があることを改めて伝えるべきですね。また、歯科医師としては、各補綴物の特徴、欠点を押さえ、接着の可能性、どの局面で何を目的としてその補綴物を使うかを考える必要性が高くなります。この時の目的とは「患者の希望」と「歯科医師としてしなくてはいけないこと」を踏まえたものでなくてはなりません。ただ、補綴物の正しい使い分けは簡単ではないと思います。

開業医に考えてほしいスキル面、マインド面とは？

岡崎 開業医の中には、自由診療は費用面などで患者さんに伝えづらいという理由で、説明を行わなかったりするケースがあったりします。そのマインド面に関しては、どのように打破していくべきとお考えでしょうか？

岡村先生 そうですね。要は、オーラルスキャナ、CAD/CAM含め、これからはデジタルデンティストリーじゃないですか。ですから、アナログ時代の基本的な

知識、技術が無ければその評価ができないと思います。基本的な知識・技術が無ければ、それ以降先には進めないということです。

岡崎／時代としてはデジタルデンティストリーに向かっているけども、それにそのまま乗っかるのはナンセンスということですかね。基本に忠実にというのが大切あり、根本はそこだということですね。

岡村先生／そうですね。やはり、基本的な知識がないとデジタルの評価が出来ないということです。これからデジタルデンティストリーの時代を迎えるにあたって、基本的な技術・知識を身に付けることが第一歩だと思います。

岡崎／開業されている歯科医師の方において、足りない技術、再確認すべき項目についてどうお考えでしょうか？

岡村先生／基本的に今の歯科医師は技工をしていないので、なにが正しいか分かっていない場合が多いです。また基準が分かっていないのが問題です。うちの医院に来られる患者で以前の歯医者で100〜200万円払っているのに適切な治療がされておらず、話にならない場合が多く気の毒です。結局目が養われていないから、なにがどうなっているか分かっていない場合が多いですね。

岡村先生／大学は、ほとんどドラバースクールみたいなもので、卒業生はペーパーライバーみたいなものなんです。それから卒業して技工を自分でやっ

てみる機会がないんですよ。歯は削るかもしれないけど、詰め物をつくるのは技工士。やっぱりそこを一度でいいから経験しないと、【あ、やっぱりここが大事なんだ】っていうのがわからない。卒業した後すぐ勤務でしてすぐ開業だから技工を学ぶ機会って少ないんですよ。

岡崎／国家試験を受けるための基準値は学校で学べるが、現場の基準値はなかなか学びづらいということですね。

岡村先生／そうですね。そういうチャンスがない。学校でも教え切る先生は少ないのが実情ですよ。逆にいうと気の毒ですよ。本人たちは悪気ないから。教えている人もわかっていない。

岡村先生／そうしたことから、日本はワールドスタンダードから遅れてしまっている。それが日本では、保険治療のなかでまかり通っている。患者も文句をいわないので歯科医師も責任を持たない。つまりお互いなあなあになってしまっているんですね。だけど、患者が【じゃ50万円、100万円払いましょう】ってなつて噛めなかつたら不満になってまた歯医者を探し歩くんですね。

岡崎／その繰り返しはつらいですね。続いて補綴治療に関する心構えはいかがでしょう。

岡村先生／補綴とは、歯冠形成したり、補綴物を装着する治療な訳ですが、基本的には、歯を守るという姿勢を持つべきです。歯を守るということは、できる

だけ歯を削らないということです。補綴医だけでも、不必要に歯を削らない。そういったことを患者に訴えることも大切ですね。不必要に削らないためにどうするかという考えが必要です。基本的なラインは歯を削らない姿勢があるかどうかです。しかし、ブリッジがあり、入れ歯がある。特に歯を削らないためにはインプラントだとしましょう。そういった選択肢を我々は沢山もたなくてはならない。それはインプラントだけでは不足、いろんな提示ができてはいけません。その選択肢があつたうえで、歯を守るのが基本ですと伝える。どうしたら、最小限で済むか。キレイな歯は削らないようにと考えて、経済的な面も含めて可能なら、インプラントになるでしょうし、そこまでは、というなら、しょうがないから、オールセラミックの3本ブリッジも考えられます。それも無理なら、部分被覆冠のブリッジとなりますが、部分被覆冠のブリッジにはそれなりのスキルが必要になります。



岡崎／つまり、保険診療で被せてしまってもよい箇所をあえて部分被覆冠のブリッジで行うということですね。保険診療で部分被覆冠のブリッジを行うと手間が掛かりすぎてしまう場合が多いので、保険で削って被せてしまう場合が多いと聞きますね。

岡村先生／そうですね。様々な事を伝えて、基本的に歯を守っていきたいという姿勢を伝えなくてはいい。ベースはそこだと思います。自分のご家族ならどうしますか？歯を守りませんか？ということですね。ただ、患者にどうしても余裕が無い場合は、綺麗な歯を削るしかない。しかし、その場合、歯科医師には健康な歯を削る大義があるのかを心に問うて欲しい。それでも患者が変わらない場合は限られた中でベストを尽くすことが大切です。

メタルフリーを目指すにあたっての成長ステップとは？

岡崎／今後メタルフリーの提案をしていくためにはどういった成長ステップを踏んでいけばよいでしょうか。

岡村先生／やはり、基本的な補綴知識と技術の習得が第一ステップです。その次に、ワックスアップの技術、それができて、やっとメタルフリーの



提案ができるようになると思います。基本的な補綴知識と技術とは、つまり、接着技術とどう歯を守るかを知ること。そうした基本があると、金属のインレーなんか入れられないですよ。できるだけ自費ダイレクトレジンで終わらせる。その後、変色することを患者に伝えて、ベニアの治療を提案する場合もある。やはり、患者さんは歯科医師の真剣度をみますよ。それに対してお金を払うんですよ。なので、まず一人の患者さんに向き合って、できるだけ保険のコンポジットレジンで治療し、大きな部分は手間がかかる分自費の提案をする。そのときは、あまり時間のかからない自費ダイレクトボンディングか通常の自費補綴部物を提案するようにする。自費ダイレクトボンディングが出来るようになるためには、技工士が行うワックスアップができる必要があるので、ワックスアップの技術を身に付ける必要があります。

私が米国で専門医を取得して感じたことは、「**日本の開業医という立場は、情報が入ってくる環境が少なすぎる。**」ということです。世界ではどのような基準で歯科治療が進んできているのか。どのようなアプローチがベストとされているのか。それらを知るためには、その経験をしている人から情報を仕入れる必要がありますが、これまでの歯科業界ではそのような場は少なかったと感じています。

なぜインプラントや矯正、エンドなどの臨床研修には行くにも拘わらず、補綴分野に関しての研修には開業後ほとんど行っていない歯科医師が多いのか、私は疑問に感じます。補綴こそ、多くの患者と触れ合うことができ、患者に変革を促せるチャンスが無限にあると思います。

岡崎／今後予想される歯科業界の変化はどのような点でしょうか？

岡村先生／確実にデジタルデンティ

ストリーは広がっていくものと思います。特にオールスキャナー分野の技術革新は目を見張るものがあり、各社しのぎを削っています。きつと5年以内に歯科治療のあり方は次の時代に進んでいると思います。その中で、私も含めた開業医の歯科医師は、先手先手で時代を先読みして、準備をすることが重要だと思います。

先ほどあったようにオールスキャナーを活用する診療フローなどは、**これまで当たり前だったものとは別物となります。**私自身、アメリカ留学時代の『技工も自分で行う』という環境で鍛えられたからこそオールスキャナーを応用した補綴治療を行うことができる実感しております。そして、技工物に詳しくなることは材料それぞれの特徴を捉えられることです。なので、安にジルコニアが良いとか悪いとか、単一の視点から判断できないということです。パラジウム合金とCAD/CAM冠のメリットとデメリットが何で、目の前の症例に対しての最良である材料はなにか、ハッキリと言いつけるだけの根拠をもった診療ができるようになることがポイントですね。



破折率5.3%↓2.7%減少が大きな自信に！

Dr1名当たり2015年23本↓2018年40本へ成長

その“秘訣”を徹底解説

破折率を下げることで
自らの自信に
繋がった

当法人は2005年に東京都大田区大森駅直結の場所で開業しました。開業当時から多くの患者さんに来院頂き、更に、補綴に関しても高い自由診療比率となっていました。経営面を考えれば、非常に良かったのかもしれないが、やはり歯科医師として考えると、ベストの治療を提供できているかと考えるとそうではありませんでした。特に、当時から問題となっていたのは「破折」でした。歯科医師の皆様であれば分かって頂けると思うのですが、破折は医院持ちで技工代など持ちますし、なにより患者さんからクレームを頂くきっかけになります。個人的にはこの「タダ働き」と「クレーム」は無いに越したことはありません。その頃から、私も含めて法人全体で「破折率」をいかにして下げていくか、というチャレンジが始まりました。

「補綴を学び直す」なんて
今更・・・と思われる
かもしれませんね

2014年にセレクトを導入して以来、毎年1,000本以上の症例を提供してきましたが、その分、お叱りを受けることもあったのが事実です。



その頃から様々な取り組みを行ってきましたが、当法人は2015年からご縁を頂いて、**米国歯科大学院同窓会会長**を務める**岡村光信先生**に院内研修を行って頂いています。

技術研修を行っている先生方は様々ないらつしやると思いますが、岡村先生に来ていただいているのには大きな理由があります。「ワールドスタンダードの視点でご指導頂ける」「自由診療だけがベストではないという広い視点」、そして何よりも「開業医でありながら、海外の留学経験、専門医を取得されている」という点です。

技術研修の結果はすぐに出ました。課題であった「破折率」が減少していたのです。更に、それが私も含めドクター陣の自信になり、**3年間でDr1名当たり2015年23本↓2018年40本**という結果が出ました。



医療法人社団正翔会 横須賀歯科医院

院長 横須賀 正人氏

私も含めて、補綴を学び直す前までは「補綴治療は問題ないだろう」と思われると思います。ただ、個人的には開業医だからこそ、特に開業10年以内に改めて補綴治療を見つめ直す機会を強制的に設けると良いと思います。

今では多くの患者さんに自信をもって補綴治療を提供できていると思います。また、生産性向上が求められる時代に、補綴治療を見つめ直すというのは、一番の生産性向上の近道だと思っています。



たった1%の歯科医師が知っている これからの歯科医院経営を 船井総研が解説！

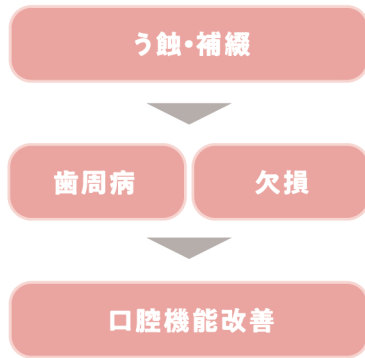
歯科ニーズの変化と これからの歯科ニーズ

今の診療報酬改定内でも歯周病分野や初期う蝕へのアプローチを優遇する流れから見ても明らかです。

う蝕洪水時代から歯周病ケアへの変化は、言わずもがな事実であり、多くの歯科医師の皆さまにご理解頂けるのではないかと考えます。

また、小児分野においてはう蝕よりも不正咬合が顕著化していることを考えると、これから数十年後の歯科治療ニーズは大きく変化することが予想されます。

歯科ニーズの変化



う蝕洪水時代に 求められるニーズ

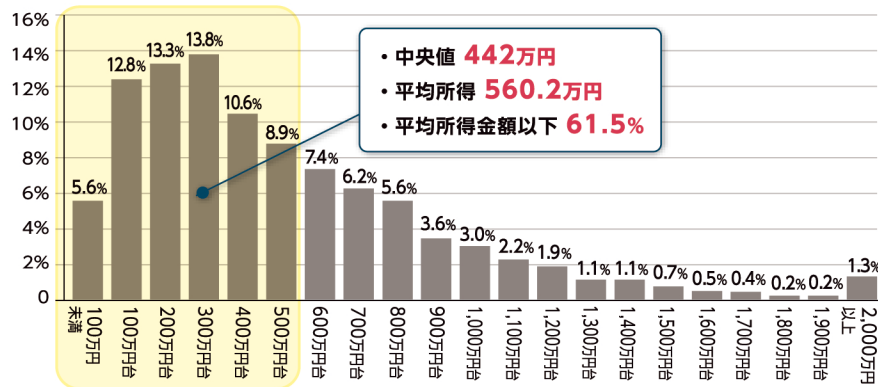
痛みを取り多くの患者に治療を届けること。
リーズナブルに治療を提供すること。

う蝕減少×歯周病ケア時代に 求められるニーズ

う蝕、歯周病のリスク判定とケアプランの提供。
精度の高い歯冠修復技術と補綴物の提供。

こういった環境の中で、現在開業医として活躍される皆さまは、大きなターニングポイントに来ていると考えています。特に30代、40代の方々にとっては、これから数年間での選択が将来の歯科医師、更には歯科医院の方向性を決めると考えて頂いてよいと思います。そういった時代背景の中で、補綴治療というベーシックな分野について再考する必要性が少なからず出ていると考えています。

所得金額階層別・世帯数別相対度数分布(2016年分・2017年調査)



社会構造の変化に 対応することも重要！

歯科ニーズの変化にともなう歯科医師の皆さまが考えなければいけないことは沢山ありますが、我々がよくお伝えさせて頂いているのは「所得の変化」です。

歯科医師はあくまで歯科医療を通じて患者の口腔内を守る存在であることは前提でありながら、同時に、日々研鑽を積み、常にワールドスタンダードの

視点で物事を捉え、ベストな提案を行うことが求められます。しかし、極端な言い方をすればいかに技術が高くても、患者にその価値が伝わらなければそれは全く価値をなさないものなのです。

では、その技術を学ぶにはどのようにすればよいのでしょうか。それは、今の価値観を捉えることに他なりません。価値観を定量的に推し量る方法とは「所得の変化」を捉えることです。

結論から申し上げますと、平均所得・中央値ともに年々減少しています。様々な業界ではその変化に対応したビジネスモデルが展開されています。

では歯科業界、特に今回のテーマである補綴はどうでしょうか。セラミックが普及しだした1980年代、メタルボンドが中心となった2000年代から見ても、提供されている補綴物の種類はもちろん、料金設定などは同じままであることがほとんどだと感じています。



弊社コンサルタントより皆様へ

所得格差は広がる中で、1本10数万円の価値を届けるというのは訓練された人間でも難しいのではないのでしょうか。

この価値観が広がる中で、上手に価値を伝え、より良い治療を提供することに成功している医院には特徴があると感じています。

その特徴こそ、CAD/CAMを中心とするデジタル化の流れに上手く乗り、それに合わせたスキルを学んだ医院であるということです。

そして、生産性向上が叫ばれる中で、コ・デンタル達を教育し、歯科医師本来の存在意義である臨床家に特化し、情報伝達やカウンセリングに特化した人材を育成できている医院が更に伸び続けているのも事実です。



開業後、補綴治療について真剣に考える時間はどのくらいありましたでしょうか？

最近の補綴治療はどこまで進んでいるのか？時代に遅れになっていないか？

今までの均一的な歯冠修復方法やマテリアルの選定が果たしてベストなのか？

保険制度をどの様に捉え、銀歯とどのように向き合うべきなのか？

補綴治療において非効率な部分はないだろうか？

など補綴分野に関して皆様はどのくらい時間を割き、アップデートされていますでしょうか？

今回、のご案内をお送りさせて頂いたのは、大きな変化の少ない歯科業界の中

で、ここ数年内に起こることが予想される補綴分野の変化について考えるきっかけにして頂ければという想いです。

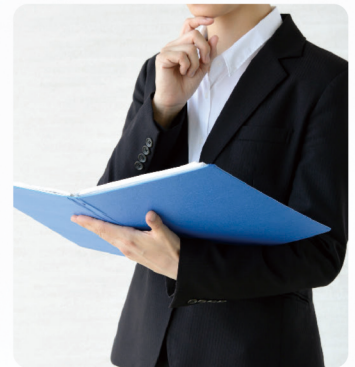
そして、本セミナーはこれまでデジタルデンティストリーやメタルフリーなど聞いたことがあるけども全く実感がわかないと言った方はもちろんのこと、現在デジタルシフトに向けて絶賛取り組み中である！という方にも打ってつけのセミナーとなっております。

更に今回は、「デジタルデンティストリー×メタルフリー」の第一人者の医療法人光梅会 岡村歯科医院 岡村光信先生と東京都大田区で開業され、現在「デジタルデンティストリー×メタルフリー経営」を実践されている医療法人社団正翔会 横須賀 正人先生をお招きすることが決定しました。

そして、我々船井総研歯科医院コンサルティングチームとしては、これまで年間20本を超える経営セミナーを開催して参りましたが、今回創設18年で初めての「臨床×経営」のセミナーとなります。

経営に関するテクニック論だけではなく、その道の第一線の方々とのコラボレーションを通じて、患者さんにも、従業員にも、歯科医師にも、そして経営者にもためになるノウハウを提供していければと考えております。

ぜひ一度、内容などをご確認の上、11月18日(日)東京駅船井総研丸の内オフィスにて、皆様とお会いできることを楽しみにしております。どうぞ宜しくお願い致します。



- ・教科書的ではない！開業医だから知っておくべきセラミック知識
- ・明日から使える！見直したいセラミック臨床～接着について～
- ・CAD/CAM時代に求められる“新”歯科医師像とオールセラミック材料の進化
- ・金属修復物とオールセラミックのそれぞれのアプローチの差
- ・これから訪れるデジタルデンティストリー時代をシンプルに解説

岡村先生の講座では、国内のセラミック治療の第一人者としてのこれから訪れるデジタルデンティストリーとメタルフリー時代について、更には明日の診療から使えるテクニック論までをお話頂きます。

- ・破折率5.3%⇒2.7%減少が大きな自信につながった要因を大解説
- ・初公開！院内ラボ立ち上げから成長までのステップ
- ・開業医が考えるべきセラミック治療のブランディング手法
- ・セレックを既に導入している。もしくは検討している医院に伝えたいセレック活用の“いろは”
- ・外部講師やコンサルタントを依頼するときに注意したいこと

横須賀先生の講座では、開業後実際に実績を上げているトップとしての目線やドクターならではの臨床スキルや教育制度など、生々しい事例を用いてお話頂きます。

- ・国内最大手の歯科コンサルティンググループが考える今後の補綴治療と経営手法
- ・メタルフリー診療を目指す歯科医院が考えるべき経営手法
- ・自費補綴成約数20本/月からの成長ステップと実践事項
- ・全国100院で実践している行動科学に基づいた次世代カウンセリング手法を初公開！

船井総研講座では、年間300医院以上の経営指導を行っているコンサルティングの現場目線での成功事例、失敗事例を赤裸々に解説させて頂きます。

第1 講座

12:00 ~ 13:00

これからの 歯科医院経営の時流

株式会社船井総合研究所 岡崎 晃平



第2 講座

13:00 ~ 15:00

補綴修復法の大変革「今を語る」 ニュートレンディ オールセラミックレストレーション

医療法人光梅会 岡村歯科医院 岡村 光信氏



第3 講座

15:00 ~ 15:45

明日から取り入れる！補綴治療における 生産性向上パネルディスカッション

医療法人光梅会 岡村歯科医院

岡村 光信氏

医療法人社団正翔会 横須賀歯科医院

横須賀 正人氏

株式会社船井総合研究所

岡崎 晃平



第4 講座

16:00 ~ 17:00

患者さんに適正な補綴を選択していただくための 医院体制と次世代カウンセリング手法

株式会社船井総合研究所 土屋 暁洋



本セミナーは下記日時での
録画放送もございます。

2018年11月23日(金) 9:00 ~ 13:00

2018年11月25日(日) 9:00 ~ 13:00

WEB からの申し込み

右記のQRコードを読み取り WEB ページの
お申込みフォームよりお申込みください。

セミナー情報を下記 WEB ページからもご覧いただけます！
https://funai-dental.com/seminar2/036899_lp/

